

1. 研究課題名

当院における多職種連携による高齢者のポリファーマシー対策実践に向けた取り組み

2. 背景と意義

高齢者では、薬物有害事象が老年症候群として表れることが多いとされている。そのため、老年症候群を含めて薬剤との関係が疑わしい症状・所見、処方をチェックし、多職種でのポリファーマシー対策の実践が有用であるとされている。

3. 目的

当院における 65 歳以上の入院患者のうち、6 剤以上の内服薬及び特に高齢者で慎重な投与を要する薬剤（以下、PIMs : potentially inappropriate medications）を服用する患者における老年症候群の症状発現状況を把握する。また、多職種連携によるポリファーマシー対策実践の効果を検討する。

4. 方法

JCHO 金沢病院において、2018 年 8 月 1 日～8 月 31 日及び 2019 年 4 月 1 日～4 月 30 日に入院した患者のカルテ調査を行い、データを収集する。

5. 目標症例数と研究実施期間

1) 目標症例数：

280 例。本研究では正確なサンプルサイズの設定は行わず、JCHO 金沢病院での本研究期間において指定した期間に入院されたすべての患者を対象とする。

2) 研究実施期間：

2019 年 4 月 3 日～2019 年 9 月 30 日

6. 研究参加施設における調査手順

1) 研究対象者

JCHO 金沢病院において、2018 年 8 月 1 日～8 月 31 日及び 2019 年 4 月 1 日～4 月 30 日に入院し、年齢が 65 歳以上（入院日時点）、入院期間が 8 日～120 日の患者（死亡退院を除く）。を対象とする。

2) 調査項目

患者背景（年齢、性別、入院日、退院日）、入院時及び退院時の内服薬（臨時薬及び頓服薬を除く）薬剤数・PIMs 薬剤数・PIMs 薬剤名、入院日及び退院日直近の「転倒転落スクリーニングシート」に記載されている各項目*の点数

* 「転倒転落スクリーニングシート」に記載されている項目のうち調査する項目

①（活動領域）ふらつき（あり：3 点、なし：0 点）

② (認識力) 見当識障害、意識混濁、せん妄、不穏行動、認知症症状、判断・理解力の低下 (あり：4点、なし：0点)

③ (排泄) 頻尿 (昼8回以上、夜2回以上)、下痢、尿・便失禁、夜間トイレに通う (あり：各項目3点 (最大12点)、なし：0点)

7. 記録の保存について

1) 保存する資料の種類

得られた要配慮個人情報、匿名加工情報へ変換して Microsoft Excel ファイルへ保存する。

2) 保存方法

保存する資料については、専用の USB フラッシュメモリに保存し、施錠された机に保存する。

3) 個人情報管理責任者

対応表：水野宏昭 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)

8. 研究成果の帰属と結果の公表

研究成果から得られた結果の帰属は JCHO 金沢病院薬剤科とする。結果は日本老年薬学会や JCHO 学会、その他研究会等での発表および専門誌への投稿論文として公表する。

9. 研究組織

- ・研究責任者：水野宏昭 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
- ・研究分担者：西上 潤 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
宮田久恵 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
岡田昌江 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
甲本駿介 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
本田恭子 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
熊野文香 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
松上拓樹 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
中川実保 (JCHO 金沢病院薬剤科、薬剤師)
- ・事務担当者：JCHO 金沢病院薬剤科

住所：〒920-8610 石川県金沢市沖町ハ-15

電話番号：076-252-2200 (内線 2153)

E-mail：mizuno-hiroaki@kanazawa.jcho.go.jp

担当者：水野宏昭